

保証規定

一. 保証の範囲

- 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合はこの保証書により無料で修理いたします。
- 保証期間はご購入後1年間です。
- 但し、次の場合は保証期間中でも有料となります。
(a) 取り扱い過誤による故障。
(b) 製品に改造を加えた場合の故障。
(c) 天災、地災等による故障ならびに損傷。
(d) 消耗商品、タイヤ・チューブ
(e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
(f) 保証書のご提示がない場合。
- 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
- この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

二. サービスのご利用

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

三. ご注意

保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

NHR-7/-7B 取扱説明書

このたびは車いすをお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございました。お取り扱いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しく御使用くださいますようお願い致します。

⚠️ 全車いすに関する注意事項です。必ずお読みください。お読みになった後、必ず保管してください。

一般的な注意点!

- 車いすを投げたり落としたりしないでください。
- 火気を近づけないでください。
- 腰かける部分以外には座らないでください。
- 1人乗りですから2人以上乗らないでください。
- フットサポートに重いものを引っ掛けないでください。
- 車いすの乗り降りの際には、必ず左右両輪のブレーキを掛けて固定してください。ブレーキを掛けていても動く車があります。
- リクライニング時、ヘッドサポート部に荷重をかけないでください。
- タイヤを持って滑らないでください。(ブレーキで指を挟みます。)
- 倒れかかるような座り方はしないでください。(転倒したり車いすが壊れやすくなります。)
- 夜間、雨降りは通行者や車から発見しにくくなりますので注意してください。
- シートベルトのあるものは必ず装着してください。

放置してはいけません!

- 直射日光のあたる場所。(車内も含む)
- ストープ等火気を使用し、高温になる場所。
- 湿気の多い場所又雨のあたる場所。
- 子どもが遊びに使えそうな場所と保管方法。
- 急な坂、車道に近い所、人通りの有る所。
- リクライニングしたまま。(乗車時も含む)

介助が必要な時!

- リクライニング操作。
- エレベータリング操作。
- 車いすへの乗降時(初心者及び重度の方)
- 急な坂道。
- 凹凸や段差の有る場所での移動。
- 踏み切り等の溝のある場所での移動。

介助者の注意点!

- 走行中搭乗者の身体の一部及び衣服がタイヤ、スポーク、キャスト、及び地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないよう、車いすに安全に座れているかを確認してから操作をしてください。
- 介助者は絶対に車いすに乗って介助しないでください。
- リクライニング時は不安定になります。もたれかかったり、通行者に触れたりしないよう注意してください。
- 認知症の方の場合は車いすのシート、部品等を飲み込むことも考えられます。十分注意してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「一年間」無償にて修理いたします。

機	種	名
お	客	様
お	買	い
販	売	店
TEL		()
TEL		()
年		月
日		印

見本

日進医療器具株式会社
〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村字権現35-2
TEL(0568)21-0635(代) FAX(0568)23-2787

車いすは耐用年数5年

を基本にして製作してあります。5年経過後使用される場合は販売店または弊社にて点検して頂きますよう、お願いします。

2006.10 500

⚠️ 走行中身体を乗り出したりして、走行の安全性を損なうことのないように注意してください。

🙏 永くご使用して頂くために、保守・点検・整備をごまめに行ってください。不調にお気づきの時は、お早目に販売店までご連絡ください。

定期的に点検・清掃を!

- 中性洗剤を染み込ませた布で、泥やホコリなどの汚れを拭き取り、その後から拭きで洗剤をきれいに拭き取ってください。
- ハンドリムなどの表面のキズを見つけた場合は、安全のため紙ヤスリで滑らかにしておきましょう。
- 清掃時には各部のキズ、亀裂、ボルト、ナット類の緩み、タイヤの摩耗状態等を合わせて点検し、緩み等があれば締めましょう。各ジョイント部への給油も行ってください。
- 清掃時はワックスをかけておくと美しさが長持ちし、汚れにくく汚れた時も汚れを取りやすくなります。
- タイヤの空気圧をチェックしましょう。タイヤの側面に空気圧が表示してありますから、参考にして補充してください。(ボンド表示の場合には約1/5をkg/cm²の目安にしてください。)

製品を安全にご使用頂くために

- 使用者最大体重は積載物も含んだ重さです。体重制限を守って使用してください。
- 段差や凹凸等のある路面等を走行する時は、前のめりにならないように、注意して操作してください。
- 自走用であっても介助用として使用できる可能性がある場合は、制動用ブレーキ及びシートベルトが付いているものを選んでください。

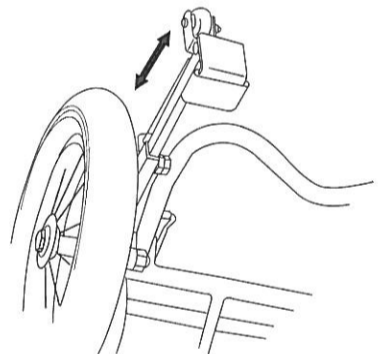
SGマーク制度は、車いすの欠陥によって発生した人身事故の対応の賠償制度です。

K 転倒防止装置

- シート・リクライニング動作時や、シート・リクライニングした状態で車いすを使用する場合は、必ず転倒防止装置を引き出してください。
- 転倒防止装置の出し入れは、セファの防止の為、必ずセフを引いて行ってください。
- ただし、セフが傾いた状態の場合は足を使わずに、手出し入れをしてください。

▲ 注意点

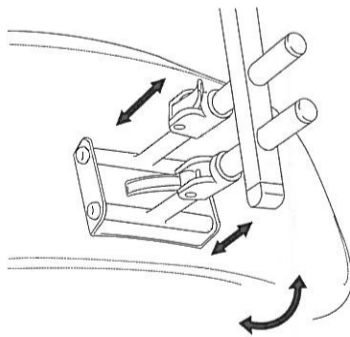
- 操作の仕方
● シートのシート足を引くことにより、転倒防止装置を引き出すことができます。
- 戻すときは、シートのシート足を足で押し戻してください。



J シートサポート

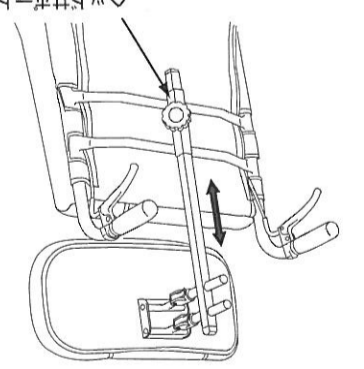
- シートサポート裏側のロックスプリングを前方に倒すとヘッドサポートの角度のロックスプリングはずれ、角度調整ができます。
- 任意の角度に調整後、ロックスプリングを手前に戻し、しっかりと固定させていただきます。
- ロックスプリングのロックスプリング状態で、ヘッドサポートの角度を動かさないと、故障の原因となります。

■ 角度調整の仕方



■ 高さ調整の仕方

- ヘッドサポート高さ調整用ノブを緩めて、ヘッドサポートを任意の高さに合わせる事ができます。調整後はノブをしっかりと締め、ヘッドサポートの高さを固定してください。



I シート

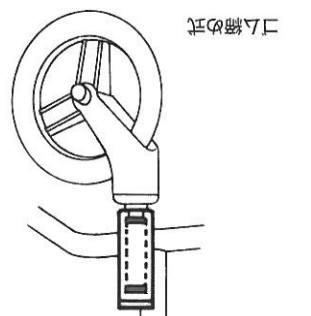
- 材質及び操作の仕方
● シートは一般的な車いすに多く使用されているシート材料です。裏面はMCM重地シートの中に芯地を入れてシートの強度を確保しています。
- シート及び操作の仕方
● シート等は汚れにくいようにしてください。
- シート等が乗る場所、雨のあたる場所等での保管はできるだけ避けてください。
- シートを止めている状態のゆるみは調整してください。

■ 保守点検

- 中性洗剤を染み込ませた布で泥や汚れをかき取り、ゆるんでいる場合は締め直ししてください。
- シートを止めている状態のゆるみは調整していただく。

H キヤスタ

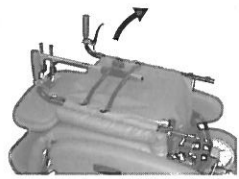
- 操作のポイント
● フロムにはキヤスタ軸ハウジングの中心を締め、車いすの停止位置が正確に止まる方式です。
- 操作の仕方
● キヤスタの近さを調整して、タイヤが十分に接触するようにしてください。調整後はタイヤの中心が正確に止まるようにしてください。
- 保守点検
● キヤスタの取り付けが正確にできているか、緩みがないか、タイヤの中心が正確に止まるか、調整してください。
- キヤスタの摩擦は丈夫か。
- キヤスタの中心が正確に止まるか、調整してください。
- キヤスタの摩擦は丈夫か。



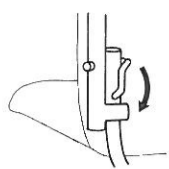
車いすの広げ方・折りたたみ方

■ 広げ方

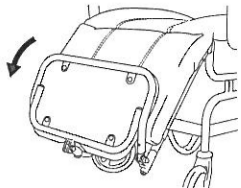
△ バックサポート固定レバーによりバックサポートが固定されていない状態での使用は絶対にしないでください。



① グリップを持って背部を後方へ起こしてください。

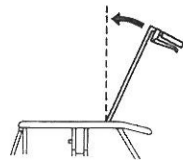


② バックサポート固定レバーを上へ起こし、バックサポートを更に後へ倒しレバーを下へ回転させてレバー受けに当てて固定してください。

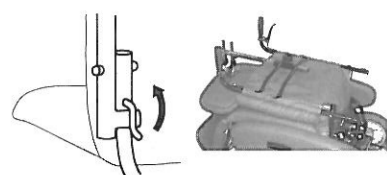


③ 手でフットサポートを持ち、フットサポートを開きます。

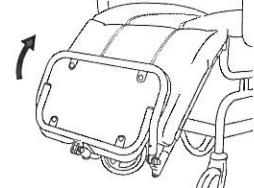
■ 折りたたみ方



① グリップのリクライニングレバーを握って、背もたれを垂直に起こしてください。



② バックサポート固定レバーを回転してレバー受けから外し、上方に立てたままバックサポートを前方へ折りたたみます。

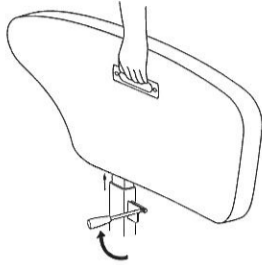


③ 手でフットサポートを持ち、フットサポートを起こしてたたみます。

アームサポート

■ 操作の仕方

- 下げ方 (折りたたみ方) アームサポートが落ちないようにしっかりと持ち、アームサポート高調整レバーの先端を前に引き出して、アームサポートをゆっくり下げます。
- 上げ方 (広げ方) アームサポートが落ちないようにしっかりと持ち、アームサポート固定用のスライドピンが入り込んで、アームサポートが固定されるまでアームサポート高調整レバーを引き上げてください。



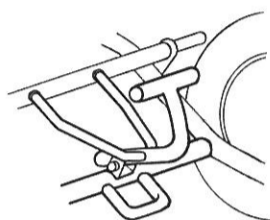
■ 注意点

- レバーをそのまま引っぱるとアームサポートが落下して危険です。指等を挟む恐れがあります。アームサポートをしっかり持ってゆっくり下ろしてください。
- アームサポート固定用のスライドピンが入り込みアームサポートが落ちないようにロックされていることを確認してください。
- アームサポートに腰掛けたり、強い力で押さえたり、アームサポートを持って車いすを持ち上げる等の行為は絶対にしないでください。

ブレーキ

■ 操作の仕方

- ブレーキのかけ方 ペダルを足で踏み込む事により、ブレーキシューがタイヤを押さえてブレーキがかかります。
- 解除の仕方 踏み込んだペダルを足のつま先で上へ引き上げて解除します。



■ 注意点

- ブレーキをかけた状態で坂を下りしないでください。(タイヤ及びブレーキシューが早く摩耗すると、濡れた路面等で急に動きだす事があり大変危険です。)
- しっかりブレーキをかけていても、乗降などで横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車輪止めをしてください。
- ブレーキレバーなどに体重をあずけるような事はしないでください。



NHR-7/-7B (写真はNHR-7Bのものです。)

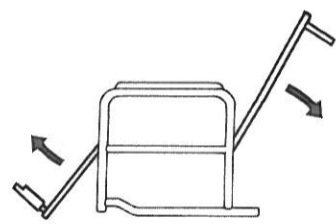
■ 保守点検

- タイヤの空気圧は適切かどうか点検し不足している場合は補充してください。

フット・レッグサポート

■ 操作の仕方

- バックサポートを倒す事によりフット・レッグサポートが上りバックサポートを起す事により下がります。操作方法は④バックサポートの説明をお読みください。



バックサポートと連動して動く挙上式です。

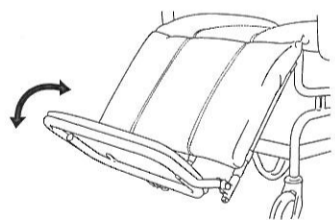
■ 注意点

- 乗車者の足がフット・レッグサポートの上いきちんに乗っていることを確認してから操作してください。
- フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
- フット・レッグサポートを強い力で押ししたりその上に座ったりしないでください。

フットサポート

■ 操作の仕方

- フットサポートの上下調整の仕方 フットサポート下端の調整ネジを付属のスプナで緩めて、高さに合わせてからしっかりと締め付けます。(上下スライドしにくい場合は調整ネジを下からたたく様にショックをあたえと緩みます。)
- フットサポート・レッグサポート間角度の調整 フット・レッグサポートの裏側にある角度調整用のノブネジを緩め、フットサポートを動かし、任意の角度に調整できます。調整後は必ずノブネジをしっかり締めてください。



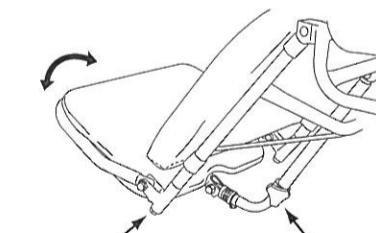
上下調整と角度調整ができるフットサポートです。

■ 注意点

- 高さ・角度の調整後はしっかりとネジ及びノブネジを締めて固定してからご使用ください。
- あまり延ばし過ぎると段差、スロープ等でつまづく事があります。フットサポートの一番低い所で50m/m程度あった方が良いでしょう。
- フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。



△ 使用の際にはフットサポート中央から出ているパイプ(可動部)に、付属のカバー(マジック取め式)を必ずまいてください。

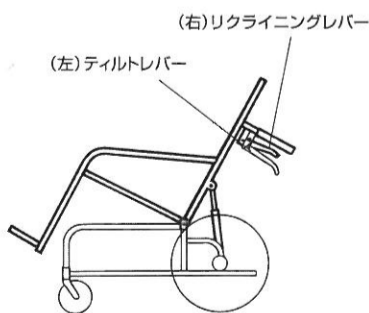


フットサポート上下調整ネジ
フットサポート・レッグサポート間角度調整用ノブネジ

バックサポート

■ リクライニング・ティルト操作の仕方

- リクライニングレバー (右) 又はティルトレバー (左) をグリップと一緒に握り後方へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。(その際、介助者が胸や肩、腕でしっかり支えるようにしてください。)
- リクライニングレバーとティルトレバーは、必ず交互に操作して最適なポジションを作ってください。同時に操作すると、姿勢が急激に変えることがありますのでご注意ください。



座と一体で無段階に角度調整ができるリクライニング・ティルト式です。

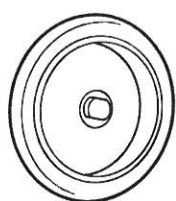
■ 注意点

- フット・レッグサポートと連動しますので、必ず搭乗者の足の位置も確認してから操作をしてください。
- 止めたい位置でキチッと止るかどうかが、使用前に必ず確認してからお使いください。
- 乗車者の身体の一部及び衣服等を挟まないよう注意しながらゆっくり操作してください。
- アームサポート高を下げた状態で大きくティルト動作をすると、アームサポートが主輪に当たり、危険かつ故障の原因となります。ティルト動作の際はアームサポート高を主輪に当たらない高さに調整してください。
- ティルト・リクライニング動作をするときは、左右の転倒防止装置を引き出して、車いすが転倒しないようにして操作してください。
- ティルト・リクライニング動作をするときは、必ずブレーキをかけてください。走行しながら操作しないでください。
- 乗車者の身体の一部及び衣服等を挟まないよう注意しながらゆっくり操作してください。
- 人が乗っている時に手押しハンドル及びヘッドサポート・アームサポートで車いすを持ち上げたり、押さえて前を浮す様な事はしないでください。

主輪

■ 操作のポイント

- ハンドリムがありませんので本人が直接駆動する事はできません。
- 介助者がグリップを握り車いすを後方から押すためのコンパクトにするため小車輪が使われています。



主輪

■ 注意点

- 主輪とフレームの間、スポークの間等に指や衣類が挟まらないよう注意してください。
- 直射日光のあたる場所、火気の近く高温な場所は避けてください。

■ 保守点検

- タイヤの空気圧は適切かどうか点検し、不足している場合は補充してください。
- 車輪のガタや緩み、スポークの折れ、曲り、緩み等チェックして補修してください。
- タイヤの摩耗をチェックしタイヤの溝が無くなりかけたら交換してください。(修理調整ができない場合は販売店までお問い合わせください)